

中国農村・10年の変遷

——江西省B県における農家追跡調査より——

原田忠直*

要旨

本論文は、1999年8月から2010年2月までの約10年半、江西省北部のある一つの集落の変遷を辿った記録である。集落で生活する人々の就業状況を中心に追跡した結果、浮かび上がる姿は、農地を奪われ生活状況が激変する農家、挙家離村する農家、若年層を中心に、次から次へと都市に仕事を求め故郷を離れていく実態である。そして、それは、急成長を遂げる中国経済の陰で、一つの集落が解体していく過程そのものである。

キーワード：農民、民工、土地使用権、地縁・血縁ネットワーク、挙家離村

はじめに

本稿は、江西省B県¹ Y鎮T村² C集落³の19戸（調査対象者は1999年当時104人）の就業・生活状況について1999年8月から2010年2月までの約10年半の追跡調査結果である。本稿で紹介する内容は、1999年以降、筆者が幾度と調査対象地に赴き、ヒアリング・アンケート調査

* 日本福祉大学経済学部

- 1 B県は、1980年代の半ば過ぎまで、「農民は晴れた日には身を粉にして、雨の日は泥だらけになりながら働いても貧しい」と揶揄されるほど、江西省では、貧困県として有名であった。しかし、1980年代後半から、タバコ工場の改革に乗り出したことをきっかけに、急速に工業部門が発達し、1990年代以降、経済成長率は15%以上の高い水準を維持している。
- 2 Y鎮T村はB県の中心地であるL鎮から南西約8kmに位置している。1998年当時、農家戸数は643戸、人口は2,947人（男性1,569人、女性1,378人）である。また、労働力は1,356人（男性814人、女性542人）であり、1人当たりの年収は、1984年から1989年で、約700元から2,058元に増加している。しかし、1998年の水準は、B県の農村地域における水準（約2,300元）を下回っている。
- 3 C集落にChen一族が住み始めたのは、おおよそ300年ほど前のこと。安徽省から来た1人の男性が始まりだといわれている。1980年代半ば頃までは、集落内にある溜め池を囲む様に建てられた数件の長屋に一族全員が肩を寄せ合いながら生活していた。しかし、1990年代に入ると、次から次に集落内に住居を建設していった。住居は主に2~3階建てが多い。ただし、従来の長屋には1999年当時では4家族が生活していたが、2010年では空き家となっていた。

を実施し、収集した情報に基づいている⁴。

筆者が、このC集落を調査するきっかけは、1990年代後半、上海市の新龍華地区および漕溪路にあった民工学校⁵の調査時に、B県出身者が多数含まれていたことが始まりである。すなわち、B県を訪れたそもそもの目的は、大量の民工を排出している地区とは、いかなる状況にあるのかを明らかにすることであった。1999年の調査では、T村内の2つの集落で農家調査を行い、また、若年層を中心に意識調査を実施した⁶。このうち、本稿では、量的にもまとまりがあり、その後の追跡調査も順調に進んでいるC集落を取り上げる。

そして、本稿の目的は、C集落の19戸の農家が辿った変遷を整理しながら、調査対象者である104人が、過去10年半の間、農民として、または民工として、中国社会のなかでどのように生きてきたかを浮かび上げさせ、改革開放後、急速に変化を遂げる中国社会を捉え直すための一つの足がかりを資料的に提示することである。

1. 1999年のC集落19戸の状況

(1) 基本的な概況

C集落は(写真1・写真2参照)、約40戸からなるChen(仮称)一族の集落である。1999年8月の調査では、このうち、19戸に対してヒアリング調査を実施した(表1-1・参照)。19戸の総人口は104人で、平均年齢は31.2歳である。19戸のうち、すべて二世帯以上が同居する家族構成である(このうち三世帯同居は6世帯)。また、各家庭の第一子誕生時の「妻」の年齢をみると、平均が19.9歳と低くなっている。とくに、-2番と-2番は16歳、-4番と-2番は17歳で第一子を出産している⁷。

性別構成をみると、男性は53人、女性は51人でほぼ均衡している。しかし、高校生以下の32人の性別構成では、男子20人(62.5%)、女子12人(37.5%)となっており、非常に偏った結果になっている。男子が、多い理由は、女子を妊娠した場合、中絶するケースが頻繁に行われた

4 江西省B県における調査は、これまで1999年2月、7月、8月、9月、2002年8月、2007年9月、2008年8月、2009年1月、9月、2010年2月の計10回行った。主な調査内容は、C集落における農家追跡調査、T村の若年層に対するアンケート調査、自営業者に対するヒアリング調査などである。また、調査では、B県の県党書記、県長、副県長(経済担当者と教育担当者の2名)、Y鎮の党書記、鎮長、そして、T村の党書記、村長に対するヒアリング調査も実施した。

5 民工学校とは、民工の子どもたちのための学校である。民工の子どもは、戸籍制度の下、都市の学校に通うことが難しいため、上海市では、1990年代半ば過ぎから、民工によって、次から次へ作られていった。新龍華地区の民工学校は、1995年に設立され、2005年に閉鎖されるまでの約10年間運営された。また、漕溪路地区の学校は、1998年に設立され、2003年に閉鎖された。どちらもB県出身者の民工が設立した学校であり、学生数は、もっとも多い時期で両校をあわせ約700人の子どもたちが学んでいた。

6 B県で実施したアンケート調査結果は、原田忠直(2009, 2010)。

7 逆に、-2番、-2番の第一子誕生は24歳とやや高くなっているが、この2戸では、第一子が男子であり、男子誕生まで女子の中絶を繰り返していた可能性は否定できない。



写真 1. 幹線道路 (写真 4) からみた C 集落
(著者撮影 2000 年)



写真 2. C 集落内部の様子
(著者撮影 2009 年)

ためだと推測される⁸。このように 19 戸全体の性別構成は均衡 (正常) が保たれているが、高校生以下に限れば、異常な結果が示され、これは、計画出産によるひとつの弊害であるとみるのが可能であろう。

就業者数は、学生および幼児の 32 人、高齢者の 2 名 (一般的には 65 歳以上の層を指すが、ヒアリング時に 65 歳以上であっても、就業が確認された人々は就業者にカウントした)、専業主婦の 9 人、身体障害者の 2 人⁹、そして、「無職」と回答した 1 人を除く 58 人である。この 58 人の性別構成は男性 31 人、女性 27 人、平均年齢は 40.2 歳である。さらに、58 人の 1999 年当時の就業状況を見ると、B 県内で働くのは 42 人、県外で働くのは 16 人である。次節以降では、県内・県外就業者のそれぞれの特徴をさらに詳しくみたい。

(2) 県内就業者の特徴

B 県内で働く 42 人の性別は男性が 18 人、女性が 24 人で、女性の方が多く、平均年齢は 43.3 歳であり、就業者の平均年齢よりもわずかだが高くなっている。

就業状況を見ると、42 人のうち、30 人までが、農業生産に従事している。C 集落の主な生産物は、米 (二期作) と麦であり、1 ムーあたりの年収は、おおよそ 1,000~1,500 円である (1 ムーは約 6.7 アール)。年 3 回の収穫があり、農業生産には一定程度の労力が必要とされる。しかし、C 集落を含む T 村の農地は約 1,490 ムーで、1 人当たりの耕地面積は、わずか 0.51 ムーで非常に狭く、農業だけで生計を立てることは困難である。そのため、戸主が農業生産を中心に従

8 T 村では、1997 年 9 月 31 日から 1998 年 10 月 1 日までの 1 年間に、19 人が新たに生まれたが、その陰で、中絶手術が 14 件行われた。このうち女子を中絶するケースが大半であるといわれていた。

9 身体障害者 (2 人とも 1 人で生活することは困難である) については、ヒアリング調査時において細心の注意が必要であるが、C 集落では、この 2 人以外にも、数人の身体障害者がいる。原因は定かではないが、近親婚による影響であるといわれている。C 集落におけるヒアリング時に、障害児の子どもを、孤児院の前に捨て、拾われるまで木陰に隠れ、じっと我が子を見つめていたという話を聞かれたときは、胸が詰まる思いであった。

中国農村・10年の変遷

表 1-1

農家番号	番号	性別	続柄	年齢(2010年)	1999年の状況	2010年の状況	備考
	1	男	戸主	38	上海で野菜・果物の販売	上海に滞在(詳細は不明)	
	2	男	父	死去	農業生産に従事		
	3	女	母	死去	農業生産に従事		
	4	女	妻	35	上海で野菜・果物の販売	(詳細は不明)	
	5	女	長女	15	幼児	(詳細は不明)	
	6	女	長女	13	幼児	(詳細は不明)	
	1	男	戸主	50	乗合輸タク業	乗合輸タク業	
	2	女	妻	49	農業生産に従事	無職	
	3	男	長男	28	上海の建設会社に勤務	上海の建設会社に勤務	既婚(1人)
	4	男	次男	26	高校生	上海の建設会社に勤務	既婚(1人)
	1	男	戸主	58	乗合輸タク業	上海(詳細は不明)	
	2	男	父	死去	農業生産に従事	(詳細は不明)	
	3	女	母	死去	農業生産に従事	(詳細は不明)	
	4	女	妻	58	農業生産に従事	(詳細は不明)	
	5	女	長女	37	無職(専業主婦)	(詳細は不明)	
	6	女	次女	35	無職(専業主婦)	(詳細は不明)	
	7	男	長男	32	温州の工場に勤務	(詳細は不明)	
	1	男	戸主	47	乗合輸タク業	乗合輸タク業	
	2	女	妻	45	農業生産に従事	無職	
	3	女	長女	26	中学生	無職(専業主婦)	(既婚・2人)
	4	女	次女	24	中学生	無職(専業主婦)	(既婚・1人)
	5	男	長男	22	小学生	揚州のレストランに勤務 (コック・親戚のお店)	
	6	男	次男	20	小学生	鎮江のレストランに勤務(ウェイター)	
	1	男	戸主	53	釜の生産・販売(自宅)	B県の建設会社に勤務	
	2	男	父	死去	農業生産に従事		
	3	女	母	75	農業生産に従事	無職	
	4	男	弟	42	身体障害者	2004年から毎月130元が支給されている	
	5	女	妻	52	農業生産に従事	農業生産に従事	
	6	男	長男	28	高校生	L鎮で開業	既婚(1人)
	7	男	次男	26	中学生	惠州の家具工場に勤務	既婚(1人)
	1	男	戸主	62	長沙で解体業を経営	長沙で解体業を経営	
	2	女	妻	60	夫の会社に勤務	無職	
	3	女	長女	40	無職(専業主婦)	無職	既婚(3人)
	4	女	次女	35	無職(専業主婦)	無職	既婚(1人)
	5	男	長男	33	父親の会社に勤務	父親の会社に勤務	
	6	男	次男	27	中学生	父親の会社に勤務	
	1	男	戸主	52	乗合輸タク業	養鶏業	
	2	女	妻	50	農業生産に従事	養鶏業	
	3	男	長男	28	高校生	S県の国税局に勤務	既婚(1人)
	4	女	長女	26	中学生	B県の電子工場に勤務	
	5	女	次女	24	小学生	南昌農業大学に通学	
	1	男	戸主	66	S県の工場に勤務	S県のリンの採掘会社に勤務	
	2	女	妻	58	農業生産に従事	無職	
	3	女	長女	42	身体障害者	毎月40元が支給されている	
	4	女	次女	38	無職(専業主婦)	上海の工場に勤務	既婚
	5	女	三女	35	無職(専業主婦)	上海の工場に勤務	既婚
	6	男	長男	32	軍隊(広州、消防兵)	広州の自動車工場に勤務	既婚(1人)
	7	男	次男	30	農業生産に従事	浙江省の工場に勤務	
	1	男	戸主	58	乗合輸タク業	病気治療中	
	2	女	妻	54	農業生産に従事	無職	
	3	女	長女	38	無職(専業主婦)	無職(L鎮で生活)	既婚(2人)
	4	女	次女	34	無職(専業主婦)	無職(L鎮で生活)	既婚(2人)
	5	男	長男	33	広東の工場に勤務	B県の警備会社に勤務	既婚(2人)
	6	男	次男	31	広東の工場に勤務	B県のベンキ工場に勤務	既婚(1人)

農家番号	番号	性別	続柄	年齢(2010年)	1999年の状況	2010年の状況	備考
	1	男	戸主	48	農業生産に従事	B 県の建設会社に勤務	
	2	女	妻	44	農業生産に従事	B 県の電子工場に勤務	
	3	男	長男	20	小学生	九江職業学校に在籍	
	4	女	長女	20	小学生	蘇州の携帯電話の部品工場に勤務	
	1	男	戸主	45	乗合輪タク業	長沙の解体会社に勤務	
	2	女	妻	44	農業生産に従事	無職	
	3	男	長男	25	中学生	衢州の診療所に勤務	
	4	男	次男	23	小学生	慈溪の理髪店に勤務	
	5	男	三男	21	小学生	長沙の建設会社に勤務 (シャベルカー運転手)	
	1	男	戸主	42	江山市の工場に勤務(乗合輪タク業も)	自宅で豆腐の製造	
	2	女	母	75	農業生産に従事	無職	
	3	女	妻	40	農業生産に従事	豆腐製造の手伝い	
	4	男	長男	18	小学生	高校生	
	1	男	戸主	45	農業生産に従事	B 県の建設会社に勤務	
	2	女	妻	35	農業生産に従事	無職	
	3	男	長男	13	幼児	中学生	
	1	男	戸主	46	自宅で豆腐製造及び販売	B 県の建設会社に勤務	
	2	女	妻	45	豆腐製造及び販売及び農業生産に従事	無職	
	3	男	長男	27	中学生	上海の水道・電気などの工事会社に勤務	既婚(2人)
	4	男	次男	25	中学生	上海の水道・電気などの工事会社に勤務	
	5	男	三男	23	小学生	廈門の靴工場に勤務	
	1	男	戸主	49	農業生産に従事	B 県の花火工場に勤務	
	2	男	父	死去	無職		
	3	女	母	78	農業生産に従事	無職	
	4	女	妻	45	農業生産に従事	無職	
	5	女	長女	28	広東の工場に勤務	無職	既婚(1人)
	6	女	次女	26	高校生	海南大学に在籍	
	7	男	長男	23	中学生	S 県の建設会社に勤務 (シャベルカーの運転手)	既婚(1人)
	8	女	三女	20	小学生	上海のパソコン会社に勤務(販売員)	
	1	男	戸主	42	農業生産に従事	B 県のタバコ工場に勤務	
	2	女	妻	38	農業生産に従事	無職	
	3	女	長女	20	中学生	温州の会社に勤務	
	4	男	長男	18	小学生	高校卒業後無職	
	1	男	戸主	60	成都で建設会社を経営	四川に引越し(詳細は不明)	
	2	女	妻	56	夫の会社に勤務	(詳細は不明)	
	3	女	長女	31	自宅で診療所を開設	(詳細は不明)	
	4	男	長男	29	少林寺で修行中	(詳細は不明)	
	5	女	次女	25	中学生	(詳細は不明)	
	1	男	戸主	58	L 鎮の鎮政府に勤務	南昌へ引越し(詳細は不明)	
	2	男	父	死去	無職		
	3	女	母	75	農業生産に従事	(詳細は不明)	
	4	女	妻	56	農業生産に従事	(詳細は不明)	
	5	男	長男	38	大学卒業後、S 県の県政府に勤務	(詳細は不明)	
	6	男	次男	37	無職	(詳細は不明)	
	7	女	長女	35	無職(専業主婦)	(詳細は不明)	
	8	女	次女	33	B 県の中学校教師	(詳細は不明)	
	1	男	戸主	40	農業生産に従事	B 県の建設会社に勤務	
	2	女	妻	38	農業生産に従事	無職	
	3	女	長女	21	小学生	無職	
	4	男	長男	16	小学生	B 県の靴工場に勤務	



写真 3. 乗合輪タク
(著者撮影 2000 年)

事しているケースは 5 人 (5 戸) しかいない。もっとも、この 5 戸のなかには、野菜生産、蜜柑栽培などにも手を広げている農家もあるが、農閑期を利用して、都市で主に建設業に従事し収入を得ているケースもある。そして、この 5 戸以外では、戸主の妻および両親が農業生産を担っているケースが一般的であり、いわゆる、C 集落の農業は「さんちゃん (じいちゃん、ばあちゃん、かあちゃん)」が主な担い手となっている。

次に、農業以外の就業先をみると、乗合輪タク (写真 3, 参照) が 6 人、役所勤め 1 人、豆腐製造・販売が 2 人、釜の製造・販売が 1 人、教員 1 人、医者 1 人となっている。以下では、乗合輪タクについて詳しくみてみたい。

乗合輪タクとは、トラクターに幌を張った荷台をつけたものである。一度に 10 人程度を乗せることができる。新車は改造費を含め約 7,000 円で購入することができ、運転者がその所有者であるケースが大半を占めている¹⁰。1999 年当時、Y 鎮には、乗合輪タクの仕事に 20 代から 40 代の働き盛りの男性を中心に 100 人以上が従事し、この地区における花形的な自営業者と位置づけられていた。1 日の売上げは、おおよそ 60~80 円で、ガソリン代や修理費などを差し引いても、1 ヶ月に 1,000~1,500 元は手元に残る勘定になる。乗合輪タク業者によれば、都市の建設現場や工場で働くよりも高収入が得られるということであった。

ただし、乗合輪タク業を営むには、B 県が定めた営業範囲を厳守しなければならない。彼らに許された範囲は、調査対象地の Y 鎮内の道路に限定されている。そのため、B 県の中心地である L 鎮 (Y 鎮には隣接している) や、ましてや上海市や南昌市に向かうための鉄道の駅がある S 県までお客を運ぶことはできない¹¹。したがって、区切られた範囲内に、100 人以上の乗合輪タク業者がひしめきあうこととなる。

さらに、1999 年 6 月、B 県では、Y 鎮の乗合輪タク業者の営業範囲はそのままの状態であっ

10 また、この地区には、軽自動車を利用した 6~8 人乗りの乗合タクシーもあったが、この軽自動車は、約 60,000 元とかなり高額であり、そのため、雇われ運転手が多かった。

11 もし、この営業範囲を破り、警察にみつかれば 50~100 元の罰金を払わなければならない。



写真 4. T 村を走る幹線道路
(著者撮影 2000 年)

たが、L 鎮から Y 鎮への路線バスの営業範囲が伸ばされるなど、県内のバス路線が拡充し、乗合輪タクの存在価値は正面から否定されることとなった。こうした状況の下で、1999 年の調査において乗合輪タクに従事していた 6 人のうち、翌 2000 年には乗合輪タクを廃業するケースもみられ¹² (-1 番)、後述するように、2010 年、この乗合輪タクに従事しているのはわずか 2 人だけである (-1 番と -1 番)。もっとも、この地区において、こうした同業者間の競争の激化、さらに、地元の行政に翻弄されるケースは、とりわけ乗合輪タクだけの問題ではない。T 村の自営業者 (小売業者) の実態をみると、乗合輪タクと同様な状況がある。

T 村では、村内を走る幹線道路 (写真 4・参照) 沿いに (T 村では商店がもっとも集積している場所である)、1999 年 2 月当時 (表 1-2・参照)、ビリヤード屋、理髪店、薬屋、仕立て屋、練炭の製造販売店などが 54 軒あった¹³。なかでも理髪店と八百屋・雑貨屋は、それぞれ 10 軒と多くみられ、これらの店の大半は、わずか 1 年から 2 年の間に開業したばかりであった。実際、理髪店を営む女性たちに話を聞くと、理容技術は、本を読んで学び、または半年ほど見習い修行をして身につけ、さらに店舗代が安いと、比較的容易に開業することができたということであった。そして、約 7 ヶ月後の 1999 年 9 月、同じ地区で第 2 回目の調査を行うと、全体の店舗数は、54 軒から 43 軒へ減少し (表 1-2・参照)、なかでも理髪店は 10 軒から 3 軒へと大幅に減少していた¹⁴。このように理髪店が、減少したのは、市場がそれほど大きくないにもかかわらず、10 軒もの理髪店が乱立していたことが一番の原因であろう。調査対象地では、店舗代が安いと、それほど多くの資金は必要でなく、誰もが容易に開業することができるが、その反面、厳しい競争を乗り越えていかなければならない状況にもあった。しかし、競争といっても価格は当初から低

12 2000 年の調査では、乗合輪タク業者は 30 人程度までに大幅に減少し、2008 年以降の調査では、乗合輪タクを拾うことも難しくなっている。

13 店舗面積は場所によってやや異なるが、20~30m² 程度のものが多い。また、店舗代は、年間 1,000~2,000 元と非常に安い。

14 店をたたんだ女性たちが、その後何をしているのか、調べたところ、7 人のうち 5 人までが、上海市や温州市などへ職を求めて移動しているということであった。

く設定（たとえば、理髪代は基本的に5元）されているため、価格競争を行なうほどの余地は残されていない。また、こうした地域内の競争の激化だけではなく、上述したように、1999年6月以降、L鎮からのバス路線が延長されたことにより、L鎮への交通アクセスが簡素化されたため村内のお客がL鎮へ流れていったことも少なからず影響を受けたといえるであろう。村の小汚い理髪店で散髪するよりも、県の中心地にある理髪店へ、若い女性を中心にお客が流れていくことはごく自然なことであったと推測される。そして、2005年には、再開発により、幹線道路の拡張工事が行われ、すべての店舗が立ち退きを余儀なくされることになり、2010年における調査では、1999年9月に調査した店舗を一つもみつけることはできなかった¹⁵。

このようにC集落およびその周辺地区では、参入障壁が低い部門を中心に自営業者が、乱立

表 1-2 T村の店舗経営の実態（1999年）

		1999年2月	1999年9月
ビリヤード屋	それぞれの店にビリヤード台は3台あり、1回のゲーム代は0.5元。	2軒	2軒
理髪店	経営者は、20代半ばから30代前半の女性。散髪代5元。	10軒	3軒
薬屋	薬の種類は風邪薬、下痢止め、栄養剤といったものがある程度で品数は少ない。	1軒	1軒
仕立て屋	どの店も3~4台のミシンがあり、10代の女性がミシンかけをしている。しかし、これら若い女性たちは従業員ではなく、ミシンの技術を学んでいるということであり、毎月100元程度の学費を支払っている。	3軒	2軒
八百屋・雑貨屋	店先に野菜や果物が並べられ、その他にタバコやお酒、油、調味料などが売られている。	10軒	8軒
家具屋	ソファとベッドが2~3点置かれているだけである。	2軒	1軒
ゲーム屋	テレビゲーム機が、10台ほどある。中高生のたまり場にもなっている。	1軒	1軒
建築資材屋	セメント、タイル、塗料、ガラスなどの販売が中心。	5軒	5軒
貸し本屋	店内に1つの棚があるだけで、30冊程度が並べてある。	1軒	1軒
修理屋	自動車・オートバイの修理屋と自転車の修理屋がそれぞれ2軒づつある。	4軒	4軒
診療所	土間に机と椅子が置かれ、診療ベッドはなく、医療機器も少ない。	2軒	1軒
練炭屋	店内で原料を練ったりして、道端で乾燥させている。	2軒	1軒
肉屋	冷蔵庫はなく、無造作に肉が並んでいる。	2軒	2軒
部品工場	川の砂や砂利を掘るための機械の部品を製造している。各工場に、2~5人の従業員がいる。全員男性。	2軒	3軒
釜の製造・販売	家族経営。従業員はいない。	2軒	1軒
飲食店	店内に5~8人かけのテーブルが5つほどある。	5軒	5軒
竹細工工場	籠やゴザなどを編んでいる。男性が4人働いている。	1軒	1軒
製麺屋	小型の製麺用機械が1台置かれている。	1軒	1軒

15 1999年9月当時の経営者が、2010年、何処にいるのかを調査したが、手がかりすらみつけることはできなかった。

する状況が生まれているが、逆に、障壁が低いことにより、競争が激化する状況が、ほぼ同時進行していたといえるであろう。また、営業範囲の取り決め、インフラ整備といった行政の思惑に翻弄されながらも、生きていくしかない人々の姿が浮かび上がってくる。このようにC集落において自営業者として生計を立てるには、その環境はあまりにも不安定で脆弱であるといわざるを得ない状況であったといえる。しかし、当時のB県の経済状況からみれば、C集落周辺において非農業部門で働く場所が、まったくなかったわけではなく、むしろ、日々、雇用状況は好転していた。

B県は、1980年代後半頃までは、江西省のなかでも貧困県として位置づけられていた。事実、1988年当時の農民一人当たりの平均収入は約400元足らずで、省平均(488元)および全国平均(544.9元)を下回る水準であった。そのため、後述するように、B県では、すでに1980年代後半には、多くの人々が、都市へ仕事を求めて移動する傾向がみられた。しかし、1992年、県政府の指導のもと進められたタバコ工場の改革が一つの契機となり、県下の工業生産は急速に発展することとなった。実際、工業生産額は、1988年から1998年の間、約1.3億元から約21.6億元へ急増し、社会総生産額に占める割合も2割から8割弱へ大幅に上昇している。

その経緯を詳しくみると、国家からの補助金(約600万元)を利用して、タバコ工場の設備を更新し、さらに管理者を湖南省から招聘するなど人事の刷新を行った。また、主力製品を地域住民の生活水準に見合った5元程度の低級品に特化し、さらに宣伝活動を積極的に行い、B県で生産されるタバコは周辺農村の隅々まで浸透していった。そして、そうした努力が実り、企業改革に取り組んでから7年後の1998年には、タバコ工場の従業員は3,800人を超えるまで成長している。さらに、この成功をもとにして、機械、電子、印刷などの企業も新たに設立され、タバコ工場を中核とする一つの企業集団が形成されている。そして、1998年には、L鎮の郊外(調査対象地のY鎮に隣接する地区)に工場団地が建設され(写真5・参照)、約12,000人を雇用するまでに成長している。

このようにC集落では、その周辺に雇用先が確保されつつある状況が生まれていたといえる。



写真5. 村に建設された工場
(著者撮影 2008年)

しかし、後述するように、C集落の人々が、周辺の工場に就業するケースはあまりみられず¹⁶、彼らは、故郷を遠く離れ、都市において民工として生きていくことを選択することになる。

(3) 県外就業者の特徴

C集落において、1999年当時、県外で就業する16人の特徴をみると(表1-1、参照)、まず、性別では、男性は12人、女性は4人で、男性が圧倒的に多い。上述した農業従事者において女性が多くみられた点と比較すれば、C集落では、1999年当時、主に男性が、都市で就業し、女性は農村に留まる、という一つのパターンがあったといえる。さらに、20代の女性の大半は、すでに結婚し、専業主婦となっていたことを考慮すれば、女性は、都市で働くよりも、早く結婚し、子どもを生むということが最優先される風潮が根強く残存していたと推測される。実際、未婚の女性が、県外で就業しているのは、わずか1人しかいない。

また、県外就業者16人の平均年齢は、31.3歳で、県内就業者の平均と比べ、10歳以上低くなっている。その理由は、16人のうち8人が、10代後半から20代によって占められていたことによる。さらに、10代後半から20代の層(いわゆる、「子ども世代」。彼らのなかには、1999年当時、あるいは、その後、世帯をもち、子どものいる人も少なくはないが、本稿では、あくまで「子ども世代」と位置づけ分析を進める)では、就業者が10人いるが、このうちの8人までが、県外で就業している。とくに、「長男」の6人は、全員が、県外就業者である。

ただし、1999年当時の10代後半から20代の若年層が、C集落における県外就業の先駆けではなく、県外就業は、この若年層だけにみられる特徴ではない。確かに、次章で詳しくみるように、2000年代に入ると、C集落では、若年層が、次から次へと都市で就業することになるが、こうした傾向は、先ず、当時の若年層よりも一世代上の30代半ば以上の層(親世代を含む)の流出が先行し、その後、彼らが続いている。

実際、C集落の県外就業者の16人のなかには、戸主層も5人含まれる。このうち、3人は、上海市で野菜・果物の販売(-1番)、長沙市で解体業を営し(-1番)、さらに、四川で建設会社を営する(-1番)というように、すでに自営業者(あるいは私営企業家)として、県外に経済的基盤を築き、家族とともに、県外で生活している(こうしたケースは、後述する「拳家離村」の先触れでもある)。また、このように県外へ生活の基盤を移す戸主層だけではなく、農閑期を利用し、都市で、不定期ながらも就業する戸主は少なくない(戸主が都市で就業する理由として、商売を始めるための資金を稼ぐため、商売が不調のため、生活費を補うためなどであ

16 タバコ工場を中核とした企業集団で働く12,000人の出身地は、おおよそ60%はB県出身者(このうち10%程度がL鎮出身者で残りは周辺の農村地区の出身者)であるが、40%は県外の出身者であった。もっとも、こうした状況は、とりわけ調査対象地においてだけにみられる傾向ではない。例えば、日系企業の従業員に対して行われたアンケート調査結果(大島一二など1998, 1997)によれば、地元で就業機会がなく都市に移動して日系企業で働いているのではなく、むしろ地元企業に就業する機会はあるが、都市での就業を選択していると回答している人々が決して少なくはない。

る)。たとえば、-1 番、-1 番、-1 番、-1 番、-1 番などの戸主は、上海市などの大都市の建設現場で働いた経験を持っている。このように C 集落では、1999 年当時の 10 代後半から 20 代の若年層が、都市へ流出していくためのルートはすでに確立されていたといえるであろう。

もちろん、こうした傾向は、C 集落だけに限られたことではない。そもそも、筆者が、C 集落を調査するきっかけともなった、上海市の民工学校における調査結果¹⁷をみると（表 1-3・参照）、1999 年当時、B 県の出身者 39 人の都市における就業状況として、次のような特徴が指摘できる。

第 1 に、調査対象者の平均年齢は、36.4 歳であり、20 代（29 歳）は 1 人、40 代は 4 人（不明は 4 人）であり、大半は 30 代である。

第 2 に、滞在期間は、「1 年から 5 年未満」は 12 人、「5 年以上」は 20 人であり（不明は 7 人）、1990 年代初頭から滞在中のケースが多くを占めている。なかでも、「10 年以上」は 6 人おり、すでに、1980 年代後半から B 県の出身者は、上海市で生活を始めていることをうかがい知ることができる。

第 3 に、就業状況を見ると、39 人のうち、31 人までが「自営業」（このうちの多くは果物の販売）であり、工場や建設現場に従事しているのは、わずか 2 人しかいない（不明は 5 人）。

以上のような特徴から明らかなように、1998 年当時、上海市では、B 県出身者による「果物販売」のネットワークが確立しており¹⁸、次から次へと、このネットワークを頼って上海市に仕事を求めてやって来ていたといえる。また、こうしたネットワークは、39 人の滞在期間から判断して、1980 年代後半以降、つまり、筆者が調査する 10 年ほど前から、築かれつつあったと推測できる。

また、B 県では、こうしたネットワークが上海市だけに確立していたわけではない。

1999 年当時、B 県では、中国各地に広がるネットワークが存在していた¹⁹。そして、B 県とさ

17 この調査は、1998 年 9 月に、上海市の漕溪路地区と新龍華地区にある 2 つの民工小学校で実施した。主な調査内容は、出身地、年齢、仕事、滞在期間などである。このうち、ここでは、B 県出身者 39 人だけを抜き出した。

18 果物の販売方法は、リヤカーの荷台に果物を載せ、路上で販売するのが、一般的である。また、地縁・血縁ネットワークの下で、商売をしているケースとして、原田忠直（1998）参照。

19 こうした上海市以外のネットワークとして、温州市、長沙市、広州市、慈溪市などと繋がるネットワークを挙げることができる。ここでは、温州ネットワークと長沙ネットワークについて具体的に触れておきたい。温州ネットワークは、1980 年代半ば頃から形成され、温州市内の幾つかのライター工場と結ばれている。ライター工場における主な仕事は、数十の部品を組み立てる作業が中心である。賃金は、出来高制であり、1 日 10 時間以上働き、比較的まとまったお金を手にすることができる。温州ネットワークは、短期間でまとまったお金を手にできるという魅力があり、それが多くの若年層をひきつけることになっている。しかし、組み立て作業は、細かくてきつく、さらに、収入が安定していないということもあり（1 週間以上も仕事がないときがある）、20 代後半以降の世代には敬遠されがちである。温州市で数年間働き、ある程度のお金をためて、故郷に戻り結婚し、商売を始めるか、または別のネットワークを利用して他の都市に再び出かけるというケースが多くみられ、再びライター工場に戻るケースは少ないようだ。長沙ネットワークは 1980 年代後半頃から形成されている。長沙市における仕事は、建設業が中心である。もともと長沙市の建設会社に雇用され、ビル建設や道路建設などに従事していたが、1990 年代初頭から、当地で主に道路建設や古い住居の解体を専門とする会社を設立するケースが生まれている（本稿では -1 番、-1 番）。

表 1-3

番号	戸主年齢	妻年齢	滞在期間 (年)	職 業
1	33	27	8	不明
2	35	33	-	自営業 (果物販売)
3	33	29	4	自営業 (果物販売)
4	34	32	4	自営業
5	38	35	-	自営業
6	29	35	2	自営業 (果物販売)
7	31	31	3	自営業 (果物販売)
8	33	30	-	自営業 (果物販売)
9	33	34	10年以上	自営業
10	33	30	4	自営業
11	34	33	10年以上	自営業
12	38	35	8	自営業
13	35	32	8	自営業 (果物販売)
14	36	31	7	自営業 (果物販売)
15	36	30	8	従業員
16	34	33	4	自営業
17	35	35	10年以上	自営業
18	39	36	5	不明
19	34	36	5	自営業
20	38	34	4	自営業 (果物販売)
21	38	35	-	自営業
22	34	36	5	自営業
23	39	36	10年以上	自営業 (果物販売)
24	-	-	3	従業員
25	36	34	-	不明
26	48	46	-	自営業 (果物販売)
27	35	31	3	自営業
28	36	31	7	自営業
29	36	36	6	自営業
30	41	33	2	自営業 (果物販売)
31	39	38	10年以上	自営業
32	-	-	5	不明
33	46	42	7	不明
34	35	32	8	自営業 (果物販売)
35	35	31	3	自営業
36	39	38	10年以上	自営業
37	-	-	9	自営業 (果物販売)
38	-	-	4	従業員
39	48	46	-	自営業 (果物販売)

さまざまな都市を結ぶネットワークの存在は、当時、県の党・政府関係者にも注目され、1999年3月、党・政府の呼びかけによって、中国各地に存在するB県出身者のネットワークの中心を担う人々を集め、「県人会」が組織されている。この「県人会」は、上海市、東莞市、惠州市、中山市、廈門市、泉州市、杭州市、温州市、長沙市、慈溪市などで私営企業家として一定程度の成功を収めている人々によって構成されている。業種は建設業、解体業、流通業など多岐にわたり、設立当時、20人ほどで構成されていた²⁰。

このように、B県では、1999年当時、すでに、広範囲にわたるネットワークが確立され、多くの人々が、都市で就業する機会を得ていたといえるであろう。ただし、反面、上述したように、B県では、急速に工業部門が発達し、県内の雇用も充実しつつあり、1990年代後半から2000年代初頭にかけて、B県では、労働力の県外への流出か、あるいは、県内への滞留かの境目を迎えていたといえる。そして、C集落においても同様な選択がなされることになる。次章では、C集落の19戸の農家およびその構成員が、どのような選択をしたかを詳しくみてみたい。

2. 2010年のC集落の状況

(1) 基本的状況

1999年8月から2010年2月までの10年半の歳月のなかで、C集落では、「拳家離村」した農家、工場建設のために半ば強制的に土地使用権のすべてを返納²¹する農家が現れるなど、大きな変化が生じている。

まず、「拳家離村」をみると、番、番、番、番の4戸の農家は、依然としてC集落内に住宅は残っているが、数年前から、春節（旧正月）時にも帰郷することなく、隣近所との連絡もなく、ほぼ拳家離村の状況にある。番の農家は、1999年当時、すでに、戸主と妻の2人が、上海市で野菜・果物の販売で生計を立て、幼い子ども2人と戸主の両親（祖父母）がC集落で生活していた。しかし、祖父母の死後、子どもは両親と上海市に行き、その後、ほとんど連絡が取れない状態にある。そのため、上海市で生活していることは、隣近所へのヒアリングによって明らかであるが、今もなお、野菜・果物の販売をしているかどうかは定かではない。番の農家

20 この「県人会」に入会するためのはっきりとした基準はないが、私営企業家として一定程度の成功を収めていること（年収10万元以上がひとつの目安とされていた）。また、各地区のネットワークに影響をもっていること、といった基準によって選出されたといわれている。そして、B県の党・政府は、この「県人会」に対して、主に次のような点を要求している。第1点、各都市においてB県出身者同士のもめごとや他県・他省出身者と何らかの問題が生じたりした場合、その調停役を勤めること。第2点、現在の商売をより拡大するためにも、県人会のメンバーは、互いに団結し、情報交換を頻繁に行うこと。第3点、B県により多くの資本を呼び込むため、県人会のメンバーは県外で積極的にB県の宣伝活動を行うこと。第4点、県政府との連絡を密接に行い、経済に関する様々な情報を収集し、すばやく県に伝えることなどである。

21 中国では、農民に対して土地の所有権は与えられず、その使用権が付与されている。工場建設やインフラ設備などのために、農地が利用される場合、その使用権が返納されることになる。

は、1999年当時、戸主が、乗合輪タク業に従事していたが、上述したように、競争の激化より、廃業を余儀なくされ、現在は、上海市で生活している。しかし、詳細は不明である。番の農家は、1999年当時、戸主が、成都市郊外で建設会社を営み、妻もその仕事に携わり、すでに「挙家離村」の傾向がみられた。そして、数年前から、連絡が取れない状況にある。また、自宅で診療所を開業していた長女も結婚を期にC集落を出て行き、その後の消息は不明である。番の農家は、1999年当時、戸主は、L鎮の役所務めであったが、その後、勤務地が南昌市になると、家族で引越し、数年前から、まったく帰郷することなく、連絡もない状態にある。このように4戸の農家、対象者26人（このうち、5人はすでに他界）の2010年時点での詳細は、不明である。

次に、上述したB県の工業部門の成長は、2000年代に入ると、C集落にも大きな影響を及ぼすことになり、2002年から2007年の間に、農地が次から次へと工場用地へ転用され、その結果として、「挙家離村」した4戸を除く15戸の農家のうち、14戸までが土地使用権を返納し²²、農業収入が絶たれることになる。

こうした状況を踏まえ、2010年2月に実施した追跡調査から、C集落の現況は以下のようになる。

第1に、1999年から2010年の間に、挙家離村した4戸の26人および、この4戸以外の農家で他界した2人を除く76人を主な対象者とする。もちろん、この間に、新たに子どもが生まれているが、今回の調査では、対象外とする。

第2に、この76人の性別構成をみると、男性は41人、女性は35人で、男性のほうが多くなっている。このことは、上述した「高校生以下」の異常な男女構成比が全体にも影響を及ぼし始めている結果である。

第3に、就業状況をみると、76人のうち、就業者は45人である。残りの31人は、学生が5人、身体障害者2人、そして、無職が24人である。1999年当時と比べ、学生数は、加齢とともに、労働市場に参入するため大幅に減少しているが、逆に、無職は、1999年の12人（その大半は専業主婦であった）から24人へと大幅に増加している。この増加は、いうまでもなく、土地使用権を返納したことによる結果にほかならない。すなわち、1999年当時、農業生産に従事していた30人のうち、1人を除く29人が農業生産からの離脱を余儀なくされ、その後、その多くが、新たな仕事に就くことができないことを示している。

第4に、就業者45人の性別構成をみると、男性は35人、女性は10人であり、平均年齢は34.7歳である。女性が、大幅に減少している理由は、上述したように土地使用権の返納、「早婚」という伝統的習慣による影響であると推測される。女性と就業については、3節で詳しく論じた。

第5に、就業者45人の就業地をみると、県内就業者は20人、県外就業者は25人である。さらに、挙家離村した4戸の就業者を含めれば、1999年当時と比べ、就業地の割合は逆転してい

²² 補償金として、1ムー当たり700元が支払われている。

る。

このようにC集落では、わずか10年半で、挙家離村する農家が出現し、土地使用権の返納による無職の増加、そして、就業者の県外への流出が増大するという大きな変化がみられた。次節以降では、県内就業者および女性の就業状況について詳しく分析を進め、県外就業者については第3章で論じることとする。

(2) 県内就業者の特徴

B県内で就業している20人の性別構成をみると、男性は15人、女性は5人である。男性が圧倒的に多く、男性15人のうち、戸主が11人を占める。また、5人の女性のうち、1人は農業生産に従事し、2人は戸主とともに自営業を営み、そして、残りの2人はB県内の電子工場に勤務している。また、20人のうち17人は、現在もC集落で生活しているが、残りの3人は、L鎮でマンションを購入する²³などして生活している。

以下では、L鎮で生活する3人とC集落で今なお生活している17人とに分け、それぞれの特徴を明らかにしたい。

まず、L鎮で生活する3人（-6番、-3番、-4番）をみると、次のような特徴がある（この3人に関しては、直接ヒアリングを行ったのではなく、両親または兄弟から得た情報に基づく。そのため、-6番以外の2人には個表はない）。

-6番は、高校卒業後、一時期、広州市の工場に勤務するなど、都市で生活していたが、4年前に結婚し（現在子どもは1人）、L鎮で衣料店を経営している。また、弟（-7番）は、現在、惠州市（広東省）の家具工場に勤務しているが、兄と同じように、L鎮内にマンションを購入し、妻と子ども（1人）が生活している。

-3番と-4番の兄弟は、ともに中学を卒業後、惠州市の工場に勤務していたが、結婚後、L鎮にマンションを購入し、現在、-3番はL鎮で警備会社に勤務し、また、-4番は、L鎮のペンキ工場に勤務している。さらに、2人の姉は、1990年代半ば頃に結婚し（子どもはそれぞれ2人いる）、B県内で生活している。

このように3人は、都市での生活を経て、帰郷したケースであるといえるが、-6番の農家と-3番の農家では、この3人だけではなく、その兄弟姉妹および後述するように彼らの両親も依然としてB県内で生活している。すなわち、この2つの家族は、その構成員の大半が、C集落またはそこから比較的近い範囲内で生活している。こうしたケースは、挙家離村した農家、後述するような家族が離散するケースとは対照的である。そして、その理由として、-6番の農家には、身体障害者がいること、また、-3番の戸主は、病弱であり（現在、病気治療のためまったく仕事ができない状態である）ということが、子ども世代の行動に影響を与えているためではないか、と

23 2010年のL鎮におけるマンションを購入費は、1m²当たり約3,800元が平均的であるといわれている。この価格は、近年、上昇する傾向にあり、5年前と比べ、3倍程度高くなっている。

推測される。

次に、C集落で生活する17人をみると、このうち戸主が11人、その妻が4人であり、C集落の就業者は、親世代によってほとんどが占められ、若年層はわずか2人しかいない（-4番は、1999年に中学を卒業後、S県の専門学校入学、2004年に卒業後、B県の電子工場に職員として勤務。-4番は、高校卒業後、県内の靴工場に就業している）。そのため、平均年齢は、43.6歳と高くなっている。以下では、戸主11人のうち、1999年から2010年までの就業状況が把握できた10人を中心に、県内就業者の特徴を明らかにしたい。

まず、1999年8月において、乗合輪タク業を営んでいた戸主（-1番、-1番、-1番、-1番）の過去10年半の経緯をみると、次のような特徴がある。

-1番は（個表1参照）、1999年から2010年まで一貫して乗合輪タクの仕事に従事している。1999年における調査では1980年代後半から乗合輪タクの仕事をしているということであり、彼は、20年以上も、この仕事に携わっている。また、収入状況を見ると、2002年に土地使用権をすべて返納しているため、農業収入はなくなっているが（それに伴い妻-2は現在無職）、乗合輪タクの年収をみると、1999年の3,000元から、2004年では5,000元、そして、2010年では9,000元へと向上している。もっとも、この間の物価上昇を考慮すれば、必ずしも生活は楽ではないが、すでに、子ども2人は、上海市で生活しており、夫婦2人で生活するには、贅沢をしない限りまずまずの生活ができている。

-1番は（個表2参照）、-1同様に、2010年においても乗合輪タク業を営んでいるが、2005年に土地使用権の返納を期に、養豚業を始めている。それにともない、収入も大幅に増加（年収30,000元）したが、2008年には、病気の発生により養豚業に失敗し（それに伴い妻-2番は無職）、現在は、再び、乗合輪タクの仕事をしている。養豚業を始めるにあたり、それまでの蓄積

個表1

-1	男(50歳)	小卒										
年	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
生活の場所	B県C集落	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"
仕事	三輪タクシー	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"
収入(年収)	3,000					5,000						9,000
土地使用権	有	"	"	(一部返還)	無	"	"	"	"	"	"	"

個表2

-1	男(47歳)	中卒										
年	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
生活の場所	B県C集落	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"
仕事	乗合輪タク	"	"	"	"	"	養豚業	"	"	"	乗合輪タク	"
収入(年収・元)	10,000						30,000			10,000 (養豚業に失敗)	10,000	"
土地使用権	有	"	"	"	"	"	無	"	"	"	"	"

をすべて吐き出し、その上、失敗により借金も残り、現在の生活は必ずしも楽ではない。

-1 番は (個表 3 参照)、2000 年まで乗合輪タク業を営んでいたが、2001 年に養鶏業を妻と 2 人で始め、現在に至っている。2006 年に土地使用権をすべて返納しているが、養鶏業の経営も安定しており、年収も 50,000 元あり、農地がなくなったことの影響はほとんどなく、まずまずの生活を送っている。

なお、2010 年において就業していないが、-1 番の状況を見ると (個表 4 参照)、2005 年まで、乗合輪タク業と農業生産、および農閑期を利用して都市で建設業に従事するなどして、生計を立てていた。しかし、2006 年に土地使用権をすべて返納したことにより (それに伴い妻 -2 番は無職)、県内の建設会社に勤務していた。だが、2009 年に病気になり、現在は、自宅で休養中である。すでに、農地はなく、生活保障を失い、今後の見通しもたえず、現在は、これまでの蓄積と、上述した子どもたち (-3 番と -4 番など) の仕送りでなんとか生活している。

次に、1999 年当時、乗合輪タク以外の自営業を営んでいた 2 人 (-1 番、-1 番) の経緯を見ると、次のような特徴がある。

-1 番は (個表 5 参照)、1999 年当時は、釜の製造・販売を営んでいたが、2000 年には廃業

個表 3

- 1	男 (52 歳)	小卒										
年	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
生活の場所	B 県 C 集落	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"
仕事	乗合輪タク	"	養鶏業	"	"	"	"	"	"	"	"	"
収入(年収・元)	20,000	20,000	24,000									50,000
土地使用権	有	"	"	"	"	"	"	無	"	"	"	"

個表 4

- 1	男 (58 歳)	無										
年	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
生活の場所	B 県 C 集落	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"
仕事	乗合輪タク	"	"	"	"	"	"	建築業	"	"	"	病気治療中
収入(年収・元)	6,000							8,000	"	"	"	不明
土地使用権	有	"	"	"	"	"	"	無	"	"	"	"

個表 5

- 1	男 (53 歳)	専門										
年	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
生活の場所	B 県 C 集落	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"
仕事	釜の生産	建設会社に勤務	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"
収入(年収・元)	20,000	不明										11,000
土地使用権	有	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"

し、B 県内の建設会社で半ば日雇いのような不安定な就業条件にある。そのため、収入は低い。ただし、この 番の農家は、調査対象農家のなかでは、唯一、農地の返納を免れ、現在も農業生産を行っており、妻（-5 番）は、2010 年においても農業生産に従事している。しかし、戸主の収入と農業収入をあわせても 11,000 元と収入水準は低い。身体障害者である弟（-4 番）がいるため、上海市などで条件の良い仕事に就くことは難しく、今以上の収入増は期待できない。ただし、2004 年以降、弟に対して県から生活補助費として毎月 140 元が支払われるようになっている。

-1 番は（個表 6 参照）、1999 年当時、自宅で豆腐製造を営んでいたが、2005 年には廃業し、2007 年以降、B 県内の建設会社に勤務している。-1 番と同じように日雇い仕事であり、収入は不安定であり、年収は 10,000 元程度しかない。さらに、2007 年には、土地使用権をすべて返納しており（それに伴い、妻 -2 番は無職）、農業収入もなく、生活は苦しい。

最後に、1999 年当時、農業生産に従事していた 5 人についてみると、次のような特徴がある。

-1 番は（個表 7 参照）、1999 年当時、食糧のほかに、販売目的で野菜の生産を行っていた。当時の年収は 10,000 元であり、2005 年には 20,000 元まで増加していた。しかし、2006 年に土地使用権をすべて返納したため、農業収入はなくなり、それ以降、B 県内の建設会社に勤務している。2010 年の年収は 30,000 元である。上述した -1 番、-1 番、さらに、以下でみる建設会社に勤務している戸主層と比べると、多くの収入を得ているが、-1 番は、高校を卒業しており、比較的高い学歴水準のため、日雇い仕事ではなく、現場では、責任ある仕事に就くことができている。

-1 番は（個表 8 参照）、1999 年当時、食糧を中心に農業生産を行い、農閑期には、上海市、

個表 6

- 1	男(46 歳)	小卒										
年	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
生活の場所	B 県 C 集落	"	"	"	"	"	B 県 C 集落	"	B 県 C 集落	"	"	"
仕事	豆腐製造	"	"	"	"	"	農業(豆腐製造業を廃業)	"	建設会社に勤務	"	"	"
収入(年収・元)	4,000								10,000	"	"	"
土地使用権	有	"	"	"	"	"	"	"	無	"	"	"

個表 7

- 1	男(58 歳)	高卒										
年	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
生活の場所	B 県 C 集落	"	"	"	"	"	"	B 県 C 集落	"	"	"	"
仕事	農業(野菜)	"	"	"	"	"	"	建設会社に勤務	"	"	"	"
収入(年収・元)	10,000						20,000	18,000				30,000
土地使用権	有	"	"	"	"	"		無	"	"	"	"

杭州市などで石工として働いていた。しかし、2007年に土地所有権をすべて返納したため、農業収入は絶たれ、それ以降は、B県内の建設会社に勤務している。年収は、20,000元程度で生活は決して楽ではない。

-1番は(個表9参照)、1999年当時、食糧のほかに蜜柑栽培を行っていた。当時の年収は、15,000元あり、農業従事者としては比較的高い収入を得ていた。しかし、2003年に土地所有権をすべて返納したため、やむなくB県内の花火工場に勤務している。B県では、花火の生産が盛んに行われているが、この業種は、繁忙期と閑散期が明確に分かれており、閑散期には、仕事はほとんどなく、収入も安定せず、現在の年収は12,000元程度で、農業生産を行っていたときよりも低く、生活は非常に苦しい。

-1番は(個表10参照)、-1番と同じく、1999年当時、食糧のほかに蜜柑栽培を行い、年収も12,000元であった。しかし、2005年に土地所有権をすべて返納し、それ以後は、B県内のタバコ工場に勤務している。タバコ工場は、上述したようにB県における工業部門の急成長の

個表 8

- 1	男(45歳)	中卒										
年	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
生活の場所	B県C集落	"	"	"	"	"	"	"	B県C集落	"	"	"
仕事	農業	"	"	"	"	"	"	"	建設会社に勤務	"	"	"
収入(年収・元)	10,000								20,000	"	"	"
土地所有権	有	"	"	"	"	"	"	"	無	"	"	"

個表 9

- 1	男(49歳)	小卒										
年	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
生活の場所	B県C集落	"	"	"	B県C集落	"	"	"	"	"	"	"
仕事	農業 (蜜柑栽培)	"	"	"	花火工場に勤務	"	"	"	"	"	"	"
収入(年収・元)	15,000	"	"	"	12,000	"	"	"	"	"	"	"
土地所有権	有	"	"	"	無	"	"	"	"	"	"	"

個表 10

- 1	男(42歳)	中卒										
年	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
生活の場所	B県C集落	"	"	"	"	"	B県C集落	"	"	"	"	"
仕事	農業 (蜜柑栽培)	"	"	"	"	"	タバコ工場に勤務	"	"	"	"	"
収入(年収・元)	12,000	"	"	"	"	"	不明	"	"	"	"	"
土地所有権	有	"	"	"	"	"	無	"	"	"	"	"

中核となっている工場であり、2000年代を通して、多くの雇用機会を生んでいる。しかし、このC集落では、土地使用権の返納に伴い、職を失うケースが多々みられるが、戸主のなかでタバコ工場を中核とした企業集団に就職しているのは、-1番だけである。ただし、ヒアリング時には、収入に関して、口を閉ざしたこともあり、彼の就業条件は、臨時工ではないかと推測され、必ずしも安定した収入を得ているわけではないようだ。

-1番は（個表11参照）、1999年当時、食糧を中心に農業生産を行い、農閑期には、上海市やB県の周辺地区の建設現場で働いていた。2003年に土地使用権をすべて返納し、それ以降は、B県の建設会社に勤務していたが、日雇い仕事しかなく、年収は、20,000元程度である。そのため、生活は苦しい。

以上、戸主層を中心に県内就業者の特徴をみてきたが、彼らにとっての過去10年半は、急成長を遂げるB県の経済状況とはあまりにも対照的である。そして、不安定な自営業者の実態、土地使用権の返納に伴う収入減および離農後の就業状況の不安定さは、彼らの将来の不安と直結するものである。少なくとも、2010年現在、彼らは、建設現場や工場での重労働に耐え忍ぶことも可能であろうが、これから先の10年、20年を想像することは「したくない」というのが率直な意見であろう。さらに、こうした将来に対する戸主層の不安は、当然、子ども世代にも大きな影響を与えることになるとともに、同時に、C集落の将来にも暗い影を落とす。事実、1999年の調査では、19戸の全構成員104人のうち、当時、県外就業者と県外の学校に通学する17人を除く、87人がC集落で生活していたが、この約10年半で、他界した人、県外で生活する人、県外の学校に通学する人、L鎮などの県内の別の場所に生活の拠点を移した人を除けば、2010年においてもC集落で生活しているのは55人である。さらに、この55人の平均年齢は、44.1歳であり、1999年当時と比べ、わずか10年半の間に10歳以上も高くなっている。また、1999年当時の調査においてC集落で生活する子ども世代は45人いたが、2010年2月現在、今なおC集落で生活しているのはわずか3人だけであり、B県内で生活している人を含めても7人しかない。「10年後に調査するとしても、果たして、その時に、C集落が存在しているかどうか、怪しい」とヒアリング中に幾度となく住民からいわれたが、これを否定することは困難である。

(3) 女性の就業と結婚

C集落では、1999年から2010年において女性の就業者が27人から10人へと激減しているが、

個表 11

- 1	男(40歳)	小卒										
年	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
生活の場所	B県C集落	"	"	"	B県C集落	"	"	"	"	"	"	"
仕事	農業	"	"	"	建築業	"	"	"	"	"	"	"
収入(年収・元)	10,000	"	"	"	20,000	"	"	"	"	"	"	"
土地使用権	有	"	"	"	無	"	"	"	"	"	"	"

その主な理由は、上述したように土地使用権の返納によって、 番以外の農家で農業生産ができなくなってしまったからにほかならない。1999年当時、農業生産に従事する女性は21人いた。もっとも、その後、2人の女性が他界、2人の女性が70歳以上になりすでにリタイアし、3人の女性が挙家離村しているため、2010年においてC集落で就業可能な女性は14人である。そして、この14人のなかで、土地使用権の返納を免れた -5番以外の女性は、新たな就職先を探さなければならなかった。しかし、実際に、離農後、就職できているのは、わずか3人だけである。このうち2人は、夫と一緒に自営業を営み、残りの1人は、B県の電子工場で働いている。2010年に実施したヒアリングでは、彼女たちに決して就業意欲がないわけではない。彼女たちの夫の就業条件は、上述したように必ずしも安定的とはいえず、むしろ就業したいという意識は強い。だが、彼女たちの多くは、小学校にもろくに通わず（通わせてもらえなかったといったほうがより実態に近いであろうが）、10代半ば過ぎに結婚し、すぐに出産し、その後、家庭を守りながら、農業生産だけに従事してきて、今後、まったく異なる仕事に従事できる可能性は小さいといえるであろう。彼女たちの口から、「せめて食費を浮かせるぐらいの農地を残してほしかった」と何度も聞かされたが、まさに本音といえるであろう。

また、このようにC集落において女性の就業者が少ない理由としては、農地を奪われたという外部からの力による理由もあるが、農村ならではの伝統的な習慣が大きな影を落としているケースもある。その実例として、2人の姉妹（-3番と-4番）のケースをみてみたい。

-3番は（個表12参照）、1999年に中学校を卒業し、2000年から2001年まで、B県内の裁

個表 12

- 3	女(26歳)	中卒										
年	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
生活の場所	B県C集落	"	"	広州	"	B県	"	"	"	"	"	"
仕事	中学生	裁縫学校	裁縫学校	縫製工場に勤務(裁縫学校の推薦)	"	電子工場に勤務(結婚準備の為に帰郷)	"	結婚のため退職	無職	"	"	"
収入(年収・元)	無	"	"	26,000	"	9,600	"	無	"	"	"	"
土地使用権	有	"	"	"	"	"	無	"	"	"	"	"

個表 13

- 4	女(24歳)	中学中退										
年	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
生活の場所	B県C集落	"	"	広州	"	"	B県C集落	"	S県	B県	"	"
仕事	中学中退	裁縫学校	裁縫学校	縫製工場に勤務(裁縫学校の推薦)	"	"	電子工場(結婚準備のため帰郷)	"	縫製工場(B県の工場は重労働で賃金も安いため転職)	結婚のため退職	無職	"
収入(年収・元)	無	"	"	26,000	"	"	9,600	"	18,000	無	"	"
土地使用権	有	"	"	"	"	"	無	"	"	"	"	"

縫製学校に通っている。そして、2002年に、学校の推薦を受けて、広州市の縫製工場に勤務している。当時の年収は26,000元あり、上述した父親（-1番）の乗合輪タクの年収を上回っていた。しかし、2004年、結婚の準備のために帰郷する。これは、両親の強い要望であったということである。そして、結婚までの期間、自宅からB県内の電子工場に勤めることになるが、年収は、9,600元へと大幅に減少している。2006年に結婚（22歳）を機に退職し、その後は専業主婦（無職）である。

また、妹の-4番は（個表13参照）、1999年、中学を中退し、姉と同じ裁縫学校に通学している。2001年に裁縫学校を卒業すると、姉と同じ広州市の縫製工場に勤務し、26,000元の年収を得ている。そして、姉よりも1年長く広州市で働き、2005年に結婚の準備のために帰郷し、姉と同じB県内の電子工場に勤めている。ただし、この電子工場には、2年間働き、2007年にS県の縫製工場に転職している（年収は18,000元）。転職の理由は、電子工場があまりにも重労働で低賃金であったためとしているが、新しい職場は1年で退職し、2008年に結婚（22歳）し、その後、専業主婦（無職）である。

このように2人の姉妹のケースをみると、2人は、ほぼ同じ経緯、その上、ともに22歳で結婚しているが、その背後には、両親の強い思惑あるいは農村の伝統的な強い習慣の残存を見出すことが可能であろう。とくに、上述したように姉妹の父親は、妹が結婚した2008年当時、養豚業が失敗してかなり窮地に追い込まれていたはずである。しかし、そうした事情にかかわらず彼らの思惑を突き進めるところに女性の早婚という伝統的な習慣の根深さがあるといえるであろう。もちろん、この姉妹のケースが、C集落のすべての女性にあてはまるわけではないだろうが、2010年現在、20代半ばを過ぎても未婚者である女性は2人しかいない（-5番と-6番。ともに現在大学に通学している）。

もっとも、この2人の姉妹だけではなく、女性が、結婚後、専業主婦として、残りの人生を送れるというわけではないであろう。確かに、出産後、幼い子をかかえながら、就業することはかなり難しいといえるが、近い将来、再び労働市場に舞い戻ってくる可能性は否定できない。実際、-4番、-5番は、結婚後、上海市で就業している。しかし、今回の調査では、結婚・出産後、再び、就業している女性のケースまで、追跡調査することはできず、この問題は、今後の課題としたい。

3. 県外就業者の特徴

2010年2月の調査において県外で就業しているのは25人である。もっとも、C集落では、上述したように、すでに挙家離村したケース、農閑期を利用して都市の建設現場で働き、そして、-3番、-5番、-3番、-3番、-4番などのように数年前まで都市で就業した経験を持つ人は決して少なくない。とくに、男性では、都市での就業経験がない人を探すほうが難しいといってもいい過ぎではないであろう。ただし、ここでは、この25人を中心に、戸主層と子ども世代

に分類し、それぞれの特徴をみていきたい。

まず、戸主層で、2010年2月現在、県外就業者は、-1番、-1番、-1番の3人である。

-1番は(個表14参照)、1999年当時から2010年2月まで、長沙市で解体業を営み、C集落では、もっとも成功した人物のひとりとして認知されている(-1番、また、その三男・-5番も彼を頼って長沙市で仕事をしている)。そして、1999年当時では、妻(-2番)および長男(-5番)も長沙市に移り住み、さらに、2007年以降、次男(-6番)も加わり、一緒に解体業の仕事をしている。そのため、挙家離村の状況にかなり近いといえるであろう。しかし、長女(-3番)と次女(-4番)は、結婚後、L鎮で生活しているのだが、それぞれの家庭内でゴタゴタが続いたため、2人の母である-2番は、現在、C集落で暮らしながら、2人の娘の子ども(5人)の面倒をみている。また、戸主も60歳を過ぎ、近年、体調も芳しくなく、近い将来、長沙市の会社は、子どもに任せ、帰郷する予定である。

-1番は(個表15参照)、1999年当時、S県の工場の食堂に勤務しつつ、農繁期には帰郷し、農業生産に従事していた。その後も、しばらくは、S県内で転職を繰り返していたが、2005年、土地使用権をすべて返納したため、農業収入は絶たれ、それ以降は、単身でS県の鉱業採掘会社に勤務している。現在の年収は、10,000元程度である。長女(-3番)が、身体障害者のため、あまり遠方で就業することができない。

-1番は(個表16参照)、2002年まで乗合輪タク業を営んでいたが、2002年以降、長沙市の解体業の会社に勤務している(-1番が経営する会社)。そもそも、彼は、1990年代半ば頃に、長沙市で解体業を営んでいたが、1999年の調査時には、その事業に失敗し、多くの借金を抱

個表 14

- 1	男(62歳)	小卒										
年	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
生活の場所	長 沙	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"
仕 事	解体業の経営	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"
収入(年収・元)	200,000											不明
土地使用権	有	"	"	"	"	"	無	"	"	"	"	"

個表 15

- 1	男(66歳)	無										
年	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
生活の場所	S 県	"	"	"	"	"	S 県	"	"	"	"	"
仕 事	工場の食堂に勤務						鉱業採掘会社	"	"	"	"	"
収入(年収・元)	6,000						7,200					10,000
土地使用権	有	"	"	"	"	"	無	"	"	"	"	"

え、その返済に追われながら、乗合輪タクの仕事をしていた。しかし、競争の激化により、思うように借金を返すことができず、C集落を後にして、長沙市での仕事を選択している。また、2006年、土地使用権をすべて返納し、妻（-2番）は、現在、無職であり、彼女の生活費は、主に子どもたちによって支えられている。

次に、子ども世代（22人）についてみたいが、ここでは、この22人のなかで、1999年から2010年までの経緯が明らかな16人について、詳しくみることにしたい。

-3番は（個表17参照）、1999年当時、すでに上海市で建設会社に勤務していたが、その後も、会社を転々としながらも、上海市で建設の仕事が続いている。仕事の内容は、いわゆる3K労働である。年収は、1999年の3,000元から2000年では9,000元になっているが、その水準は決して高くはない。また、5年前に結婚し、子どもが1人いるが、家族3人、上海市で暮らしている。なお、-4番（-3番の弟）も、高校を卒業後、兄を追って上海市に行き、同じく建設会社に勤務している。3年前に結婚し、子どもが1人いるが、家族3人、上海市で暮らしている。

-5番は（個表18参照）、1999年当時、小学生であったが、その後、2003年に中学を卒業し、

個表 16

- 1	男(45歳)	中卒										
年	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
生活の場所	B県C集落	"	"	長沙	"	"	"	"	"	"	"	"
仕事	乗合輪タク	"	"	解体業	"	"	"	"	"	"	"	"
収入(年収・元)	8,000	"	"	15,000	"	"	"	"	"	"	"	"
土地使用権	有	"	"	"	"	"	"	無	"	"	"	"

個表 17

- 3	男(28歳)	高卒										
年	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
生活の場所	上海	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"
仕事	建設会社に勤務	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"
収入(年収・元)	12,000											36,000
土地使用権	有	"	"	(一部返還)	無	"	"	"	"	"	"	"

個表 18

- 5	男(22歳)	専門										
年	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
生活の場所	B県C集落	"	"	"	S県	揚州	"	"	"	"	"	"
仕事	小学生	中学生	"	中学卒業	パソコン専門学校	コック(親戚の紹介)	"	"	"	"	"	"
収入(年収・元)	無	"	"	"	"	不明						24,000
土地使用権	有	"	"	"	"	"	無	"	"	"	"	"

2004年の1年間、S県の専門学校に入学し、主にパソコンの技術を学ぶが、専門学校卒業後、2004年から現在に至るまで親戚の紹介で揚州市のレストランでウェイターとして働いている。現在の年収は、24,000元である。

-6番は(個表19参照)、1999年当時、小学生であったが、2003年に中学を卒業し、その後、すぐに、友人の紹介で鎮江市のレストランでウェイターの仕事をしている。年収は24,000元である。兄(-5番)が、専門学校で学んだパソコンに関する技能が、とりわけ就業に役立つことがなかったため、彼は中学卒業後、親のすすめで、進学せずすぐに働いている。

-6番は(個表20参照)、1999年当時、高校生であったが、翌2000年に卒業し、その後、南昌市の専門学校に3年間通っている。そして、卒業後、2004年から、学校の紹介で惠州市の家具工場に勤務している。入社当初の年収は、21,600元であったが、2010年では36,000元に増加している。また、4年前に結婚し、子どもが1人いる。現在は、家族3人、惠州市で暮らしている。

-3番は(個表21参照)、1999年当時、高校生であったが、2000年に卒業し、その後、南昌

個表 19

- 6	男(20歳)	中卒										
年	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
生活の場所	B県C集落	"	"	"	"	鎮江	"	"	"	"	"	"
仕事	小学生	小学卒業	中学生	"	中学卒業	ウェイター (友人の紹介)	"	"	"	"	"	"
収入(年収・元)	無	"	"	"	"	不明						24,000
土地使用権	有	"	"	"	"	"	無	"	"	"	"	"

個表 20

- 6	男(28歳)	大卒										
年	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
生活の場所	B県C集落	"	南昌	"	"	広東	"	"	"	"	"	"
仕事	高校生	"	専門学校生	"	"	家具工場 に勤務 (学校からの推薦)	"	"	"	"	"	"
収入(年収・元)	無	"	"	"	"	21,600	2,880					36,000
土地使用権	有	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"

個表 21

- 3	男(28歳)	大卒										
年	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
生活の場所	B県C集落	"	南昌	"	"	"	S県	"	"	"	"	"
仕事	高校生	高校卒業	大学入学	"	"	大学卒業	国税局	"	"	"	"	"
収入(年収・元)	無	"	"	"	"	"						20,000
土地使用権	有	"	"	"	"	"	"	無	"	"	"	"

市の大学に入学している。子ども世代のなかで、大学に進学しているのは、男性では彼だけである。そして、大学卒業後、2005年からS県の国税局に勤務している。3年前に結婚し、子どもが1人いる。現在は、家族3人で、S県で暮らしている。

-2番は(個表22参照)、1999年当時、軍隊(広州市)で消防兵として働いていたが、2001年に除隊し、2002年から軍隊の紹介で、広州市の石油工場に勤務していた。当時の年収は18,000元であったが、きつい仕事のわりに、収入は低く、また、結婚し、子どもも生まれたため、2005年に、自動車工場に転職している。現在の年収は、30,000元であり、家族3人で、広州市で暮らしている。

-4番は(個表23参照)、1999年当時、小学生であったが、2006年、中学を卒業後、B県内の専門学校に2年間通い、2009年から、学校の紹介で蘇州市の携帯電話の部品工場に勤務している。現在の年収は、36,000元である。

-3番は(個表24参照)、1999年に中学を卒業後、S県の看護学校に2005年まで通っている。

個表 22

- 2	男(32歳)	中卒										
年	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
生活の場所	広州	"	"	広州	"	"	広州	"	"	"	"	"
仕事	軍隊	"	"	石油工場 (軍隊の紹介)	"	"	自動車 工場	"	"	"	"	"
収入(年収・元)	450			18,000			30,000					40,000
土地使用権	有	"	"	"	"	"	無	"	"	"	"	"

個表 23

- 4	女(20歳)	専門										
年	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
生活の場所	B県C集落	"	"	"	"	B県C集落	"	"	B県C集落	"	蘇州	"
仕事	小学生	"	"	"	小学 卒業	中学 入学	"	中学 卒業	専門学 校入学	専門学 校卒業	工場勤務 (学校推薦)	"
収入(年収・元)	無	"	"	"	"	"	"	"	"	"	36,000	"
土地使用権	有	"	"	"	"	"	"	無	"	"	"	"

個表 24

- 3	男(25歳)	専門										
年	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
生活の場所	B県C集落	"	"	"	"	"	"	B県C集落	"	"	衢州	"
仕事	中学 卒業	看護学 校入学	"	"	"	"	看護学 校卒業	病院 実習	"	"	診療所勤 務(友人 の紹介)	"
収入(年収・元)	無	"	"	"	"	"	"	"	"	"	18,000	"
土地使用権	有	"	"	"	"	"	"	無	"	"	"	"

卒業後、3年間、B県内の病院で実習期間を経て、2009年から友人の紹介で衢州市の診療所に勤務している。現在の年収は、18,000元である。

-4番は(個表25参照)、1999年当時、小学生であったが、2005年に中学を卒業後、2年間、B県内の自動車の整備学校に通学し、2007年に卒業している。しかし、2008年からは、自動車整備とはまったく関係がない杭州市の理髪店に勤務している。また、翌2009年からは、慈溪市の理髪店に転職している。現在の年収は24,000元である。

-5番は(個表26参照)、1999年当時、小学生であったが、2005年に小学校を卒業すると、中学には進学せず、長沙市の重機の操作技術を学ぶ専門学校に入学している。2008年に卒業し、長沙市の建設会社に勤務し、主にシャベルカーの運転手をしている。現在の年収は、48,000元である。

-3番は(個表27参照)、1999年に中学を卒業後、すぐに、広東省の家具工場に勤務してい

個表 25

- 4	男(23歳)	専門										
年	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
生活の場所	B県C集落	"	"	"	B県C集落	"	"	B県C集落	"	杭州	慈溪	"
仕事	小学生	"	"	小学卒業	中学入学	"	中学卒業	自動車修理学校	自動車修理学校	理髪店勤務	理髪店勤務	"
収入(年収・元)	無	"	"	"	"	"	"	"	"	24,000	24,000	"
土地使用権	有	"	"	"	"	"	"	無	"	"	"	"

個表 26

- 5	男(21歳)	専門										
年	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
生活の場所	B県C集落	"	"	"	"	"	"	長沙	"	"	長沙	"
仕事	小学生	"	"	"	"	"	小学校卒業	重機技術を学ぶ専門学校入学	"	専門学校卒業	シャベルカー運転手	"
収入(年収・元)	無	"	"	"	"	"	"	"	"	"	48,000	"
土地使用権	有	"	"	"	"	"	"	無	"	"	"	"

個表 27

- 3	男(27歳)	中卒										
年	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
生活の場所	B県C集落	広東	上海	上海	"	"	"	"	"	"	"	"
仕事	中学卒業	家具工場勤務	水道・電気の技術を学ぶ	水道・電気工事会社に勤務	"	"	"	"	"	"	"	"
収入(年収・元)	無	6,000	無	12,000								24,000
土地使用権	有	"	"	"	"	"	"	"	無	"	"	"

る。当時の年収は、約6,000元程度であった。その後、上海市で1年間、水道・電気整備の技術を学び（学校ではなく見習い修行）、翌2003年から水道・電気工事会社に勤務している。現在の年収は24,000元である。また、2005年に結婚し、子どもが2人いる。現在は、家族4人で、上海市で暮らしている。

-4番は（個表28参照）、1999年当時、中学生であったが、翌2000年に中学を卒業すると、兄（-3番）と同じく、広東省の家具工場に1年間だけ勤務し、その後、兄を追って上海市に行き、水道・電気整備の技術を学び、兄と同じ会社に勤務している。現在の年収は兄と同じである。

-5番は（個表29参照）、1999年に小学校を卒業し、翌2000年に中学に入学しているが、半年もたないうちに、退学し、廈門市に行き、3年間、靴製造会社で見習い修行をする。そして、2004年から廈門市の靴工場に勤務している。現在の年収は24,000元である。

-7番は（個表30参照）、1999年当時、小学生であったが、2003年に中学を卒業すると、す

個表28

- 4	男(25歳)	中卒										
年	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
生活の場所	B県C集落	"	広東	上海	上海	"	"	"	"	"	"	"
仕事	中学生	中学卒業	家具工場勤務	水道・電気の技術を学ぶ	水道・電気工事会社に勤務	"	"	"	"	"	"	"
収入(年収・元)	無	"	6,000	無	12,000							24,000
土地使用权	有	"	"	"	"	"	"	"	無	"	"	"

個表29

- 5	男(23歳)	中学中退										
年	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
生活の場所	B県C集落	"	廈門	"	"	廈門	"	"	"	"	"	"
仕事	小学校卒業	中学入学・中退	靴製造について学ぶ	"	"	靴工場に勤務	"	"	"	"	"	"
収入(年収・元)	無	"	"	"	"	7,200	"	12,000	"	24,000	"	"
土地使用权	有	"	"	"	"	"	"	"	無	"	"	"

個表30

- 7	男(23歳)	中卒										
年	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
生活の場所	B県C集落	"	"	"	"	上海	上海	"	江蘇	江西吉安	S県	S県
仕事	小学生	小学校卒業	中学入学	"	中学卒業	シャベルカーの技術を学ぶ	建築会社に勤務	"	"	"	"	"
収入(年収・元)	無	"	"	"	"	"	20,000					30,000
土地使用权	有	"	"	"	無	"	"	"	"	"	"	"

ぐに、上海市で重機操作技術を見習い修行し、2005年から上海市の建設会社で、シャベルカーの運転手として勤務している。2006年までは上海市で働いていたが、その後、江蘇省、江西省などの現場を渡り歩き、2009年からはS県の建設会社に勤務している。また、3年前に結婚し、子どもが1人いる。現在は、家族3人で、S県で暮らしている。

-8番は（個表31参照）、1999年当時、小学生であったが、2003年に中学を卒業後、S県の料理の専門学校に入学し2年間学ぶ。卒業後、2006年から学校の紹介で福州市のレストランで勤務するも、収入が低かったため（9,600元）、2008年から、上海市に移動し、パソコンの販売会社に勤務している。現在の年収は18,000元である。

-3番は（個表32参照）、1999年当時、小学生であったが、2004年に中学を卒業後、県内の専門学校に3年間通い、卒業後、2008年の1年間、県内の電子工場に勤務する。しかし、収入が低いため（8,400元）、2009年から温州市に移動し、事務職員として働いている。現在の年収は24,000元である。

以上、県外就業者の過去10年半の経緯をみてきたが、次のような点が指摘できるであろう。

第1に、子ども世代の学歴水準をみると、親世代と比べ、明らかに向上する傾向があり、とくに、裁縫、パソコン、料理、自動車修理、重機操作などの技能習得を目的とした専門学校を卒業しているケースが多い。また、学校に通学していなくても（通学するほどの金銭的余裕がなかったと思われるが）、-3番、-4番、-5番、-7番のように、見習い工として数年間働きながら、技術を習得しているケースもある。もちろん、必ずしも専門学校で学んだ技術を生かして就職しているケースばかりではなく、また、就職しても数年後には習得した技術とは関係のない職

個表 31

- 8	女(20歳)	専門										
年	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
生活の場所	B県C集落	"	B県C集落	"	"	S県	"	福州	"	上海	"	"
仕事	小学生	小学校卒業	中学入学		中学卒業	専門学校入学	専門学校卒業	レストラン勤務(専門学校の紹介)	"	パソコン販売会社勤務(販売員)	"	"
収入(年収・元)	無	"	"	"	"	"	"	9,600	"	18,000	"	"
土地使用权	有	"	"	"	無	"	"	"	"	"	"	"

個表 32

- 3	女(20歳)	専門										
年	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
生活の場所	B県C集落	"	B県C集落	"	"	"	B県C集落	"	"	B県C集落	温州	"
仕事	小学生	小学校卒業	中学入学	"	"	中学卒業	専門学校入学	"	専門学校卒業	電子工場勤務	工場勤務(事務員)	"
収入(年収・元)	無	"	"	"	"	"	"	"	"	8,400	24,000	"
土地使用权	有	"	"	"	"	"	無	"	"	"	"	"

種についているケースもある。しかし、少なくとも子ども世代では、一定程度の技術を習得してから、労働市場に参入することが一般化しつつある。このことは、低学歴ゆえに、なかなか条件の良い仕事に就くことができなかつた親世代の強い希望でもありともいえるであろう。

第2に、習得した技術の内容にもよるが、技術を生かし、C集落で今なお生活する親世代とくらべ、高収入を得ているケースもある。とくに、シャベルカーの運転手の仕事をしている-5番は親の3倍以上の収入を得ている。

第3に、就業地をみると、依然として、沿岸部の都市で就業するケースは多いが、必ずしも上海市に集中しているわけではなく、その就業地は、分散傾向にある。農家レベルでみると、たとえば、-1番の農家のように、戸主は長沙市、母親はC集落、3人の子どもは衢州市、慈溪市、長沙市と、戸主と三男と一緒に生活している以外は、離散した状態にある。もちろん、この-1番の農家だけではなく、多かれ少なかれ、子ども世代が都市で就業している農家では、離散状態にあるといつてよいであろう。

第4に、子ども世代で、すでに結婚しているケースをみると、家族と一緒に就業先の都市で生活しているケースが一般化しつつある。もちろん、上述した-3番や-4番のように、今後、都市で一定程度、資金を貯めたのちに、帰郷し、商売を始めたり、B県内の企業で就業するケースも生まれてくる可能性を否定することはできない。しかし、2010年のヒアリングでは、現在、すでに都市で就業し、家族とともに生活している子ども世代に、「帰郷したい」という強い意思を感じることはできなかつた。故郷に農地はなく、さらに、その下で生活が決して楽ではない両親の姿をみていれば、そうした決断は当然の帰結であろう。

このようにC集落における子ども世代の多くは、過去10年半の間に、かならずしも高校進学、さらには大学進学を目指すのではなく、都市での就業を視野に入れた技能を修得し、C集落を離れていったといえるであろう。そして、それは、同時に、C集落の解体への道程にほかならない。

おわりに

本稿では、1999年8月から2010年2月の10年半のC集落の19戸(104人)の変遷を追ってきたが、急成長を遂げる中国経済、さらには沿岸部を中心とした都市の繁栄とは、大きく異なる農村の様子が浮かび上がってきたといえるであろう。農地を失いながらも依然として農村で暮らす人々(本稿では主に戸主やその妻たち)、さらに、都市での就業が常態化されつつある人々(本稿では主に子ども世代)、1999年調査時では、すでに、挙家離村の前兆を示す農家も存在していたが、おおむねC集落19戸の104人は、「農民」というカテゴリーに収めることが可能であったといえるであろう。しかし、10年半という時間の推移のなかで、今なお、彼らを「農民」と呼ぶことができるのであろうか。

農地を失いながらもC集落で暮らし続ける人々は、C集落の最後の住人となる可能性は高い。この予測を覆すような要因を探すことは、現時点では非常に難しい。そして、「農民」ともいえ

ず、ましてや都市住民ともいえない、農地を失った人々を、どのように定義すべきであるのか、これは今後の大きな課題といえるであろう。しかし、こうした農地を失った戸主や妻たちのような不明瞭な存在とは反対に、都市で就業し、その上、家族とともに生活する子ども世代は、まさしく「民工」にほかならない。彼ら子ども世代も、すでに農地はなく、農民ではない。しかし、だからといって都市住民でもない。そもそも戸主層の多くは、「農民」と「民工」という身分を巧みに使い分けながら、生きてきた世代といえるであろう。むしろ、「民工」という言葉には、「農民」という意味が含まれていたといっても過言ではない。だが、子ども世代は、こうした身分を使い分けながら生きていくことはできない。もちろん、たとえ農地が残されていたとしても、子ども世代が、故郷に残るかどうか、あるいは親世代と同じような生き方を選択するかどうかは、疑わしい限りであるが、いずれにせよ、中国社会には、この数十年の間に、このC集落の子ども世代のように、農地という保障を持たずに、都市で就業するしか、生きていくことができない「民工」が生まれてきているといえるであろう。

もっとも、都市で就業するC集落の子ども世代が就業するまでのルートを見ると、地縁・血縁者に依存するケースが多くみられた。番の戸主とその子どもが番に依存しているという例だけではなく、兄弟姉妹、親戚、さらに知人が、都市での就業を手助けしているケースは一般的である（もちろん、そうした地縁・血縁関係者とは別に、専門学校の紹介を通して、都市で就業するケースも増えてきているが、就業後、転職しているケースもあり、学校に紹介された仕事を継続しているのは-6番と-4番の2人だけである）。こうした実態は、依然として、都市においても故郷のネットワークに依存していることにほかならず、彼らが、都市の片隅で孤立した状態ではないことを示している。しかし、今後、こうしたネットワークが存続するものなのかは、その紐帯の要ともいえる故郷C集落の状況がひとつの鍵を握っているだろう。したがって、C集落の今後の状況、さらに、都市就業者が、ネットワークのもとで、生活しているかどうかについての追跡調査は継続的に実施し、C集落の解体が、直接ネットワークの解体に結びつくものなのかどうかは、今後の課題としたい。

なお、本稿は平成22年度日本福祉大学課題研究費「中国出稼ぎ農民追跡調査—人口流動と第二世代の社会認識」の成果である。

参考文献

- 大島一二・森路未央・石塚哉史・佐藤宏・西野真由・加藤弘之（1997）「大連日系企業における中国人出稼ぎ労働者の実態—アンケート結果にみる出身地との紐帯—」（『中国経済』第377号 日本貿易振興会 1997年）
- 大島一二・石塚哉史・尾高恵美・加藤弘之・西野真由・森路未央・佐藤宏（1998）「深圳日系企業における中国人従業員の意識と行動—アンケート結果にみる出稼ぎ労働者の実態—」（『中国経済』第389号 日本貿易振興会 1998年）
- 原田忠直（1998）「上海における出稼ぎ自営業者の誕生」（『日中協ジャーナル』1998年10月号/No. 59, 財団法人 日中経済協会）

原田忠直 (2009) 「現代中国社会分析試論 ― 三元的社会構造としての民工問題 ―」 (『日本福祉大学研究紀要 現代と文化』 第 119 号 2009 年)

原田忠直 (2010) 「中国・民工第 2 世代 (中学生・高校生) の現状認識と将来展望」 (『日本福祉大学研究紀要 現代と文化』 第 121 号 2010 年)